

(別記様式)

令和7年度 府立中丹支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>学校教育目標 ～いどむ つながる かがやく～</p> <ul style="list-style-type: none">主体的に学ぶことも含め、未来に向かって挑戦してほしいいろいろな人とともに歩んでほしい幸福な生き方をつくりだすことで自分らしい輝きを増してほしい <p>このような児童生徒を育てるために、小・中・高の系統性を持たせた指導にあたる。</p> <p>小学部では基礎となる力を身に付ける「基礎・意欲」を大切に。</p> <p>中学部では身に付けた力を広げる、深める「発展・可能性」の段階へ。</p> <p>高等部では自立や社会参加に必要な力となるよう「統合・個性」へと発展させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none">地域との交流だけでなく、地域とつながる取組に多く取り組んだことで地域との共同の意識が高まった。今後は共同学習の具体的な方策を模索していく。学校運営協議会で委員より様々な意見をいただき、地域とともに歩むためのヒントを得ることができた。地域連携部が中心となって、ホームページやInstagram等を充実、活用しながら、積極的に地域への発信、理解啓発の推進が図れた。「働きがい」についてのアンケートを実施し本校の現状を把握し、全国平均よりも良い結果を得ることができた。働きやすさと働きがいのバランスを取りながら、継続して魅力ある学校づくりに努める。段階別の研究活動をとおして、12年間の学びの系統性について意識することができた。今後も継続して学ぶ必要がある。地域と連動した取組や、外部と関係する取組に積極的にチャレンジし、地域社会とのつながりを意識した授業づくりが進んでいるが、今後も教科の系統性や学校教育目標の実現を目指す授業づくりを行っていく。タブレット端末を使用した授業づくりがさらに進んだ。ICT機器を単に使用するだけではなく、情報活用能力が向上するためのICT機器の使用として、授業づくりを行う必要がある。トップアスリートの技やプロの芸術にたくさん触れることで、子どもたちの可能性や能力を高め、人間性や学習意欲の向上にも寄与した。	<p>学校経営</p> <ol style="list-style-type: none">地域と連携した教育 地域の関係機関との連携を図り、体験的な学習や職場体験・実習等の機会拡大を図り、児童生徒の力を伸ばす。学校運営協議会との連携 学校運営協議会と連携し、特色ある学校づくり、地域とともに歩む学校づくりのための、具体的な方策を検討、実施する。学校からの発信・理解啓発 学校の取組を各メディアに発信することにより、学校や本校の児童生徒のことをより多くの人に知ってもらい、特別支援教育の発展、理解啓発に寄与する。魅力ある学校づくりへ。 「働き方改革」「働きがい改革」の視点や成果を踏まえ、より魅力ある学校づくりへ向けて、更なる意識改革や具体的な魅力向上のための取組を検討・実施していく。 <p>教育活動</p> <ol style="list-style-type: none">12年間の系統性と自立活動（障害の特性に応じた指導）の充実 各学部・教科の系統性を意識しながら「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を行う。「社会に開かれた教育課程」の実現 交流及び共同学習の充実を図り、地域社会と連携・協同しながら、児童生徒の力や可能性を積極的に発信し、特別支援教育のセンター的機能を発揮する。学校生活やICTを活用した学習指導の充実 学んだことを生かし、新たな価値を生み出しながら自分らしく輝いた生活を送る児童生徒の育成を目指すスポーツ・芸術文化活動の積極的な推進 児童生徒の可能性や能力を最大限に伸ばするとともに豊かな人間性を育む。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
学校経営	地域と連携した教育	地域の関係機関との連携を図り、体験的な学習や職場体験・実習等の機会拡大を図り、児童生徒の力を伸ばす	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業や福祉事業所等の協力を得ながら、学部や学級単位での体験学習を実施し、働く生活を見据え、発達段階に応じたキャリア教育が一層進んだ。今後も地域と連携した体験的な学習を一層進めたい。 学校運営協議会において、インクルーシブ教育について協議したり、地域とつながる取組について協力いただいたりするなど、特色ある学校作りが進んだ。 各メディアでの取材、掲載や学校HP、SNS等を通して本校教育の様子を積極的に発信し、特別支援教育の理解、啓発にも務めることができた。 働きやすさと働きがいの両立した職場にするために、職場アンケートやこれまでの働き方改革の取組を踏まえ、魅力ある職場作りについての指針をまとめ、職員間で共有することができた。
	学校運営協議会との連携	学校運営協議会と連携し、特色ある学校づくり、地域とともに歩む学校づくりのための、具体的な方策を検討、実施する。	B		
	学校からの発信・理解啓発	学校の取組を各メディアに発信することにより、学校や本校の児童生徒のことをより多くの人に知ってもらい、特別支援教育の発展、理解啓発に寄与する。	A		
	魅力ある学校づくりへ	「働き方」「働きがい」の視点や成果を踏まえ、より魅力ある学校づくりへ向けて、更なる意識改革や具体的な魅力向上のための取組を検討・実施していく。	A		
教育活動	12年間の系統性と自立活動（障害特性に応じた指導）の充実	各学部・教科の系統性を意識しながら「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりで、社会貢献の単位を通して、目標や教科等のつながりについて学部を超えて協議し、系統性を踏まえた研究を進めることができた。 地域資源（施設や人材）の活用、地域貢献、連携や共同の取組等、多彩な学習を地域の方々と実施することができた。その中で、児童生徒の可能性や本校の教育について発信することができた。 ICT機器やアプリ等を活用し、創造性を引き出す学習や児童生徒が共に学び合うためのツールとして積極的に活用できた。 一流から学ぶ体験、多種多様な方々と関わり共に活動する取組を通して、児童生徒の躍動する姿が見られた。
	「社会に開かれた教育課程」の実現	地域社会とつながり、連携・協同しながら、児童生徒の力や可能性を積極的に発信し、特別支援教育のセンター的機能を発揮する。	B		
	学校生活やICTを活用した学習指導の充実	学んだことを生かし、新たな価値を生み出しながら自分らしく輝いた生活を送る児童生徒の育成を目指す。	B		
	スポーツ・芸術文化活動の積極的な推進	児童生徒の可能性や能力を最大限に伸ばするとともに豊かな人間性を育む。	A		
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 地域とつながる取組において、各学部の教育活動やCCSプロジェクトを通して、多彩で意義のある学習が展開されている。 インクルーシブ教育の実施に向けて、交流校との教育課程への相互理解を深めながら、共に学ぶ学習のさらなる充実を期待したい。 学校ホームページやSNS等による情報発信については、積極的な取組が行われ、教育活動や児童生徒の様子がよく伝わっている。 保護者アンケートの結果については、全体として肯定的な評価である一方で、地域資源の活用や地域とつながる学習に関して「よくわからない」との回答も一部見られることから、今後の改善やさらなる周知に生かしていくことが大切である。 				
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 各学部やCCSプロジェクトの取組をさらに充実・発展させ、本校の教育の特色を一層明確にし、魅力ある学習活動を進める。 これまで築いてきた地域とのつながりを大切にしながら、新たな連携にも積極的に取り組み、つながりの輪を広げていく。 交流及び共同学習の充実と、障害のあるなしにかかわらず、共に学び合う機会を創出し、インクルーシブな学びを推進する。 学校運営協議会と連携し、教育活動の場を広げるとともに、本校の取組を広く発信し、障害理解と共生社会の実現に向けた取組を一層進める。 				